

きせきの小学校

東広島市立小谷小学校

第5学年 末岡 依蒨

きせきの小学校

末岡 依露

夏休みに、家族で宮城県に旅行に行きました。楽しい事ばかりでしたが、一か所だけは心に「グサッ」とささる場所がありました。そこは荒浜小学校という小学校です。

まず、資料(1)をご覧ください。これは、小学校に行く途中の道です。津波が来た時に逃げるための建物「避難タワー」をいくつも見ました。ほかにも、高い堤防も作られていました。

荒浜小学校は、緑の大地にポツンと建っていました。この四階建ての小学校には、「ありがとう荒浜小学校」と書かれてありました。当然、先生や子ども達の姿はなく、一階と二階部分はところどころ折れ曲がっていたり、壊れたりしていました。そこには、市役所の方がおられて、ぼくたちに話をしてくれました。学校は津波に破壊され、この大地に、もともとあった家や草木など、町のすべてが

流されてみんな消えてしま。たそうです。ぼくは、とても信じられず、暗い気持ちになりました。

学校の中に入ると、たくさん写真や、津波の来た時刻に止ま、た泥だらけの時計などがあり、津波の恐ろしさを伝えていました。

その中の写真の一つに次のような物がありました。資料(2)をご覧ください。この写真からは、建物の屋上にたくさんの方が避難していることが分かります。この建物が荒浜小学校で、

4

3

校で、周りはまるで海のようになっています。この屋上には三百二十人は全員ヘリコプターで救助されたそうです。さらに、この写真から分かるように、この小学校の校舎は、津波にのまれずたえています。建物の向きが津波を逃がしやすか、たごと、たいしん工事をしていたことがあ、たおかげたそうです。ほくはこの学校は、きせきの小学校、だと思いました。この学校のことを、たくさんの人に知、てもらい、これからの生活に生かして

もらうために、この学校もがんばっていることが分かりました。

最後に資料(3)をご覧ください。この写真に写っている観音像は全長九メートルあります。この像の高さには、どんな意味があると思いますか。これは、たくさんの方を被害を出した津波の高さと同じだそうです。そして、この場所の様子をご覧ください。普通の海岸に見えますが、周りには何もなくて、すべてが消えてしま、たことが分かります。そして、この観

5

音像には、とくなられた百九十一名の方の名前があ、たので、ぼくは手を合わせました。

宮城県に行、てお役所の方から話を聞き、今も心に残、ていることがあります。

「津波は、自然のことなので止めることはできません。でも、この災害のことを忘れず日ごろから備えることはできます。それが大切です。」

ぼくは、七月に起きた広島での豪雨災害のことを思い出しました。自分は大雨の中、何

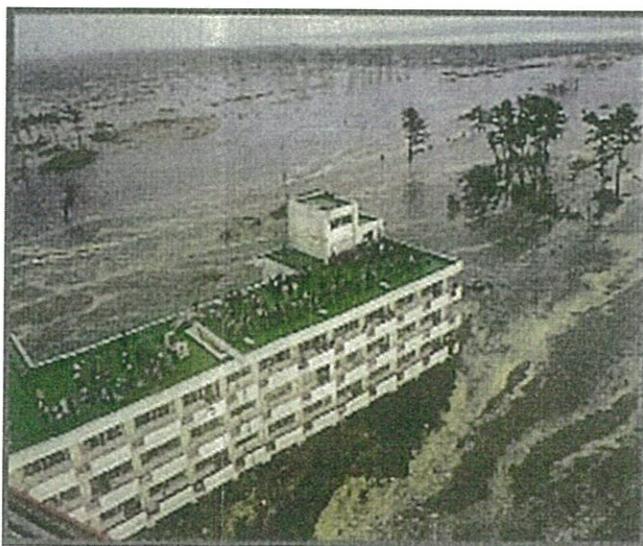
6



資料③ (海岸の観音像)



資料① (避難タワー)



資料② (災害時の荒浜小学校)

もできませんでした。この旅行で見たこと、
 感じたことを忘れず、日頃から災害に対する
 対策をして自分の命や家族の命を守ったり、
 一人でも多くの方が助かるようにしたりした
 いと思いました。

指導者の言葉

国語科「資料を生かして考えたことを書こう」の単元で、自分たちが用意した資料を活用し、呼びかけの文章を書く学習をしました。また、読み手に分かりやすい文章を書くために、事実と感想、意見を区別しながら表現することにも取り組みました。

この作品は、夏休みに訪れた東日本大震災の被災地で収集した資料や、現地で撮影した写真に基づきながら自分の考えを文章にまとめたものです。

指導に当たっては、次の3点に留意しました。

1点目は、「資料となる写真から読み取ったことを明確に示すこと」です。選んだ写真に何が写っているのか、どこに着目してほしいのかを確認し、心が動いた部分や、感じたことが伝わるように表現することを指導しました。

2点目は、「資料をもとに記述する際に適切な言葉を使うこと」です。教科書例文で使用されている「～を見てください。」「～によると」「～が分かります。」といった表現の効果を理解させ、使用するよう指導しました。

3点目は、「自分の生活につなげて、考えたことを表現すること」です。収集した情報を自身の身近な生活と関連付させることで、自分の生き方について考えることができました。

初めて被災地を訪れた衝撃や改めて感じた人の命の尊さが、自分の生き方に影響したことが分かる作品になっています。